

令和5年度「山形学」フォーラム 実施報告書

◆日 時：6月24日（土）13：20～16：30

◆会 場：遊学館ホール

◆テーマ：「山形の歴史的成り立ち」

◆内 容：今年度は、中世・近世を中心に、歴史や民俗の観点から山形の成り立ちを考え、地域を再発見すると共に、歴史を学ぶ楽しさや山形の魅力を捉えなおしていきます。

13：20～13：30 開会・「山形学」オリエンテーション

13：30～14：30 基調講演：「山形の中世—その自立と発展—」

講 師：本郷和人氏（東京大学史料編纂所教授）

14：30～14：40 休憩

14：40～16：30 パネルディスカッション：「山形の歴史的成り立ち」

パネリスト：原 淳一郎氏（山形県立米沢女子短期大学日本史学科教授）

今野 章氏（鶴岡市立図書館・鶴岡市郷土資料館 館長補佐）

菊地和博氏（東北文教大学人間科学部特任教授）

コメンテーター：本郷和人氏

コーディネーター：松尾剛次氏（「山形学」企画委員）

◆参加者数：273名

◆主 催：公益財団法人山形県生涯学習文化財団 後援：山形県教育委員会

◆当日の様子

- ・基調講演で本郷氏は、まず一万円札をもとに貨幣の意味を述べ、それから鎌倉時代に宋銭が大量に日本に持ち込まれことから貨幣経済が発展。その後商取引が活発になり日本海での流通網が発展。その動きを踏まえて山形をみると、当時の山形は酒田港の発展により経済的には、太平洋側の東北地方よりも関東よりもずっと中央（京都）に近かったが、政治・軍事の面では大分遠かったというお話しをされた。中央と地方の関係に注目しながら、山形の歴史を新しい視点でわかりやすく解説して下さった。
- ・パネルディスカッションで原氏は、山形藩の近世の領主が次々と目まぐるしく変わったり幕府領になった背景には、最上家57万石の改易が影響していること、また差額をうまく合わせるために少しずつ足し引きするために重宝だったことなど、大変興味深いお話をされた。今野氏は豊富な資料をもとに、庄内藩249年の歩みを語られた。菊地氏は、櫛引の黒川能や大蔵村の田植え踊りなど民俗の視点から庶民の文化について語られた。

コーディネーターの松尾氏は歴史を学ぶ楽しさや意義を講師一人一人に尋ね、和やかな雰囲気でありながら、自分たちの住む地域の歴史を学ぶ有意義なフォーラムとなった。



（左）松尾剛次氏 （右）本郷和人氏



会場の様子

参加者の声

- ・本郷先生の話はとても分かりやすく楽しかったので、また聴講したいです。
- ・本郷先生のお話は論理構成がしっかりしていて非常に日本の歴史がわかりやすかったです。後に続く原先生、今野先生の説明でさらによく理解できました。
- ・全国やマスコミで活躍されている先生の言葉はさすがで、とても興味をもって聴くことができました。
- ・村山郡の近世の複雑な状況が具体的にイメージできたのは、新しい経験でした。貴重なお話をお聞きでき、大変勉強になりました。
- ・全国の歴史の中で、山形の歴史の立ち位置が、どうだったのかを知ることができてとても面白かった。
- ・山形県の中世・近世について深く学ぶことができたので、今回参加できて良かったと思いました。今回お聞きしたことを頭に置きながら戦国時代の学びをしていくと面白そうだと思います。本日はありがとうございました。
- ・パネリストの一人の持ち時間が23分では短かったです。お一人でも講話できるレベルの内容でしたので、もったいなかったです。もっとお聞きしたかったです。
- ・山形市に生まれ育って「最上家の事」が身近でありながら、この歳になるまでよく知らずにいたので、今後よく知りたいと思いました。
- ・中央から見た山形の歴史、中央から奥羽地方（東北、山形地方）はどのように見られていたのか、興味のある講演でした。
- ・本郷先生の講演はもちろん、パネルディスカッションもとても学びになりました。“庄内藩の歩み”がとても分かりやすかったです。豊富な資料により、一層理解が深まりました。
- ・質疑応答において、松尾先生が講師お一人お一人に歴史を学ぶ意味や楽しさをお聞きした話が、とても面白かったです。
- ・自分の住んでいるところの話や歴史を知ることができて楽しかったです。話の仕方やスライドが面白くて魅力的でした。

○当日の様子



オリエンテーション（「山形学」企画委員）



基調講演（本郷和人氏）

パネルディスカッション



パネリスト：原淳一郎氏



パネリスト：今野章氏



パネリスト：菊地和博氏